

患者さんへ

「子宮がんに対する強度変調放射線治療の治療成績」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2011 年 4 月～2023 年 3 月に当院で子宮がんに対して放射線治療を受けられた方
2 研究目的・方法	当院にて子宮がんの放射線治療（強度変調放射線治療）を受けた患者さんの治療成績、有害事象の発生、実施された放射線治療計画について調査します。 強度変調放射線治療は、正常組織に照射される放射線量を極力低減し、標的とする部分により選択的に照射することができる方法です。しかしながら、その実施には経験のある専門的医療スタッフの配置が必要であり、準備に時間がかかるため、全ての患者さんへの適応は難しいとされています。そのため日本では子宮がん全骨盤照射での報告は少ないのですが、当院では、IMRT 専用機を使用して、子宮がんの全骨盤照射をすべて IMRT で行っており、すでに 150 例を超える IMRT による子宮がんの治療経験がありますので、この研究を行うことによって子宮がんへの強度変調放射線治療の有用性を示す可能性があります。 研究の期間: 施設院長許可(2023 年 8 月)後～2025 年 3 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	年齢、病歴、実施された放射線治療の治療計画、画像所見、手術所見、病理所見、血液データ、放射線治療以外の治療の実施歴、治療後経過、有害事象等の発生状況等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 大村素子 湘南鎌倉総合病院 放射線腫瘍科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717